

はがの文芸

サークルなどで活躍されている皆さんの作品をご紹介します。

短歌

久し振り七草がゆに有り付きぬ
今年は病近付き寄らず

荷見 泰一(芳志戸)

あくせくと時間に追われる毎日を
生きてる証と糸を慰む

早稲田 喜久枝(八ツ木)

俳句

寝そびれて障子開ければ寒の月

見目 トキ子(東高橋)

立春や幸せあふる招待状

小林 元子(東高橋)

川柳

悩み事助言で心救われる

高松 イク(下高根沢)

鍋囲み心も温い湯気の中

小林 正孝(祖母井)

肌寒に揉りおくままの春菊を
みかねて夫は鍋にて茹でぬ

鈴木 みき(東高橋)

万両の小庭に光る赤い実を

岡田 ツヤ子(西水沼)

ひよどり一羽がくすねて食べる

岡田 ツヤ子(西水沼)

春耕のひと鍬ごとの息吹かな

小林 馨(東高橋)

節分の鬼はどこかと子が尋ね

菅俣 光子(祖母井)

元氣だよ妻には言った嘘ひとつ

七井 章治(与能)

いつまでも元氣と笑顔持ち続け

山本 美枝子(稲毛田)

芳賀町人発見!



書道愛好家

田村 京子さん

(67歳・西水沼)

田村さんは、1月に国立新美術館で開催された第68回独立書展において、最高賞である独立賞を受賞しました。約2,100点の応募作品の中から、田村さんが手掛けた「虫のこえ」が選出されました。田村さんは「書道に親しんでいる人であれば誰もが憧れる賞を受賞し、とても衝撃的でした。信じられなかった」と話します。

作品の制作は約2カ月にわたり行われ、完成させるまでに200枚以上も書いたとのこと。初秋に風邪をひいて寝込んでいた時に、いろいろな虫の鳴き声が聞こえてきたことから構想が思い浮かび、作品のタイトルを「虫のこえ」に決めたそうです。

ご主人が書道をたしなんでいたことや、小学生の時に書道教室に通っていたことから、抵抗もなく何となく書道を始めたとのこと。10年ほど前から宇都宮市の先生に教わり始め、日々の鍛錬に加え、現在も会員の皆さんと月1回の錬成会を通して勉強をしているそうです。

田村さんは、芳賀町ロマン太鼓に所属しており、長年にわたり太鼓の演奏を続けています。

「町民祭や成人式などでの演奏で、書道と同様見てくれた人に感動を与えたい」と目を輝かせます。もっと多くの人に参加してもらい楽しく活動していきたいとのこと。

これからも皆さんが感動するようなご活躍を期待しています。



▲「虫のこえ (自作)」(縦69cm、横170cm)

人生これから!!

われら元気シニア

圏福祉対策課
地域包括支援センター係
☎028(677)6080

芳賀町のシニア世代は、若者に負けないくらい元気で、健康や生きがいづくりのため毎日を楽しんでいます。そんなシニア世代が中心となって活動している団体を紹介します。

生きがい
サロン
vol.16

西高橋サロン

参加者からひとこと

ストーブの火にあたりながら編み物やお話ができ最高です。毎週サロンにくるのを楽しみにしています。

- 開催場所 西高橋農業構造改善センター
- 開催日時 毎週水曜日 9:00~12:00
- 参加者数 5人
- 活動内容 近況報告、編み物、体操、お茶会など



あなたの声を聞かせてね! お便り待ってます!

●身近な出来事や町に関する要望・意見

芳賀町文化協会会長 駿河富夫さん(稲毛田)からの投稿
大僧正から非暴力のすすめ! 加藤純章談

最近日本の社会では残忍な殺傷事件や子どもに対する虐待事件が多く起きています。命の大切さを改めて考える責任があるのではないのでしょうか。「人の命」

自己よりさらに愛しいものはどこにも存在しない。他人にとってもっとも大事な「命」を奪ってはならない。こんな内容が話されていました。

今まさに「命」に対して重大さや愛しさ美しさを考えなければならぬと心から思います。「自己を愛する心」「他人を愛する心」がよりよい社会を創っていくことで、暴力を無くすことが重要です。



高松イクさん(下高根沢)



皐月さん(稲毛田)

高松イクさん(下高根沢)からの投稿

居場所づくりボランティア養成講座に出席しました。こども食堂ネットワーク鹿沼事務局長の加藤美智子先生を講師に、「自分も楽しい居場所活動」と題した楽しい講話でした。

子どもから大人まで参加できる地域の居場所づくりは、ご飯を食べたり、遊んだり、おしゃべりしたりしながら楽しいひとときを過ごせ、子どもたちは大人と会話することで協調性も伸ばすことができます。引きこもりがちの人に声を掛け、一人にならずコミュニケーションをすることで社会を広げていくこともできます。

この講座に初めて参加し、いろいろな活動を知り大変勉強になりました。「ほっとする 地域の居場所 広げよう」

小林 操さん(下高根沢)からの投稿

居場所づくりボランティア養成講座に参加しました。少子高齢化、核家族化が進み独居老人や日中一人暮らしの方が増えています。そんな時、居場所の存在が取り上げられました。地域の人との出会いや触れ合いがあることによって生きがいを感じ、明日への生きる希望がわくのではないのでしょうか。趣味を生かし、人を楽しませ自分も成長できる居場所、地域で楽しく安全安心な仲間づくりのできる居場所づくりができればと思います。



鈴木モコさん(西高橋)